

眞実をみぬく冷厳な組合員の眼

「日刊動労千葉」編集委員会が第三回定期大会に当り、計画した「10大ニュース」については本紙前号で順位について報告したが、本号では、「10大ニュース」で明らかとなった特徴点について若干分析してみたい。

動労千葉の前進を確信

「10大ニュース」の投票結果を見てまず指摘できることは、当然と言えば当然であるが、やはりこの間、組織問題が第三回大会代議員に動労千葉一四〇〇名組合員の最大関心事であったということである。

では、動労千葉組合員はこの間の組織争闘戦八ヶ月間の激闘をどのようにとらえているのか。それは第一に「動労千葉の前進」に対する確信である。

第一位・3・30結成大会、第二位・公労委認知、第三位・10・22、11・1スト貫徹という結果は、組織の命運をかけた独立「本部」反動暴力分子のあらゆる破壊策動に妨害をうち破って社会的に認められてゆく動労千葉組織体制をうち固めて労働組合の基本的力量を示すバロメーターである。ストライキに万全の体制をもって敢然と決起する一という動労千葉の躍動を一四〇〇名組合員が本心に真剣なまなざしで見つめていたことを示している。同じことは第五位・4、5月に続々と支部、分科結成、第六位・第三回定期大会成功、第十位・2・10臨大(動労千葉が機関として初めて公然と「本部」方針を否定し、千葉地本排除策動に対し決然と立つ決意を表明)、第十一位・「日刊動労千葉」発刊という順列についても言えることである。

「本部」の暴力と破産と分裂

次に、動労千葉組合員の眼は、「本部」革マル反動分子の全くセクト的な暴力と、理不尽を押し通そうとするが故に起る「本部」の分裂を見ている。

第四位・4・17津田沼事件(革マル学生を先頭に、革マル・神保本部特執、大久保前「本部」青年部長等が、竹やり、投石、ボール、カケヤ等で武装襲撃、支部長以下の津田沼支部組合員に頭蓋骨々折等の重傷を負わす)、第七位・4・28、5・1の大量(連日数千人)暴力「オルグ」団来襲、第九位・4・11錦糸町事件(弁護士を引き連れ、「列車が止まったら動労が責任を持つ」と当局に哀願し、千葉県労連の動員により総評青年協

集会に参加しようとした動労千葉青年部一八〇名に錦糸町駅ホームで四〇〇名の部隊をもって襲い

かかり、公衆の面前で暴力の限りをつくす)は4、5月段階の暴力一辺倒の「オルグ」を冷静に見ていることを示しており、第八位・中江副委員長、佐藤中執辞任は「本部」の意識分裂を正確に見ていることを示している。

動労千葉の正義性と「本部」のちよう落ぶり

第三に「10大ニュース」の結果から指摘できることは、動労千葉組合員は、動労千葉の路線的正義性に裏付けられた前進と「本部」反動暴力分子の破産を冷静に見極めていたということである。すなわち、4、5月段階の暴力「オルグ」の中にはっきりと「本部」の労働組合としての破産と限界を見、6・15公労委の認知をもって組織争闘戦の帰趨を見極めて勝利に自信をもっているというのである。第六位に第三回定期大会の成功、組織的結着が入っている以外は、時間的に6・15公労委認知以降のことからはひとつも「10大ニュース」となっていないということに、それは明白に示されている。

労働者をごまかすことはできない

第四に、決定的なことは、「本部」反動暴力分子が、この間「千葉再建の成果」として動力車新開等で懸命に煽り立てているデマが動労千葉組合員に全く見向きもされていないということである。

「本部」反動暴力分子が「心の砦」とすがりつく「津田沼事務所(動労「本部」千葉事務所)」の開設は調査対象者七二名中誰一人からも「10大ニュース」と認められず、「第三五回全国大会に参加した革マルスパイ・嶋田等七名の「決起」は8票しか集められず、逆に「第三五回全国大会の「特別代議員・竜崎氏の自己批判と動労千葉復帰」に14票が投じられているのである。

「津田沼事務所」が緒方・竹内等極悪革マル暴力分子の詰所である実態と、「東洋大学出身革マル嶋田以下七名」が「スパイと自分の利益のためには仲間を裏切る勝手者」の集団であることは、動労千葉組合員にはっきりと見破られているのだ。組合員の眼をごまかすことはできない。

「10大ニュース」はそのことをはっきりと示している。

「動労千葉10大ニュース」の意味するもの

三里塚・ジェト闘争貫徹、「国鉄35万人体制」粉碎!